



山本よしかず県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

ふるさとへの情熱

八街市特集

ふるさと八街市の未来へ向かって、1人でも多くの笑顔に出会えるようにと、山本義一県議は住みよい街づくりに全力を上げています。「信義をもって県政に！」とのスローガンを掲げて県議会に歩みを進めてから2年、この間、3度の一般質問と予算委員会の質問に立ち、県の施策を鋭く質しました。また、所属する環境生活警察常任委員会では委員長の重責を担い、安心・安全な千葉県の実現に向けて、リーダーシップを発揮し議論を取りまとめています。情熱と若さで突き進んだ山本県議の政治活動とその成果を特集します。

JR総武本線榎戸駅



北村新司・八街市長と握手を交わす山本義一県議

2月県議会一般質問に2月28日登壇
防災・防犯に強い千葉県、特別支援教育について他



榎戸駅のホームに立つ山本義一県議

橋上改札口実現へ前進 建設費などの調査着手

八街市

約5000人ですが、その6〜7割が駅東側に居住しています。これに対して同駅の改札口は現在、西口にひとつあるだけで、東口からの乗降客は狭くて危険な踏切を渡ってう回しなればなりません。「駅東口に改札口を」という住民の要望は高まるばかりで、山本県議はこの声を受け、県議会一般質問で取り上げるなど、実現に向かって積極的に活動してきました。

昨年11月にJR千葉支社を訪れて榎戸駅東口の新設を要望した際、千葉支社長から「東口に改札口を設けるより、自由通路を線路上に架けて改札口を設け、そこからプラットホームに降りられるような形にした」と提案されました。

昨年2月には北村市長とともに再びJR千葉支社を訪れた際、線路をまたぐ自由通路のイメージ図が示され、その後、JR千葉支社と八街市の間で事務レベル協議が進められてきました。

委託したコンサルタント会社から今年度中に報告を受け、それをもとに再び、JR東日本と協議を行う予定。自由通路や改札の形状などについて双方で合意次第、建設への協定が結ばれます。八街市の担当者は「26

年度中の工事着手を目指したい」と話しています。

JRでは基本的に改札口は1駅に1つという方針で、自由通路からの改札口が実現すると、現在の西口改札の取り扱いが焦点になります。また、建設費用の負担割合も協議の課題になります。

いずれにせよ、榎戸駅周辺では、新しい住宅街地にふさわしい都市機能を備えた街づくりが構想されているだけに、榎戸駅の利便性向上が待たれるところです。

未来へ向かって前進

千葉県や八街市のご意見、ご要望をお聞かせください

山本よしかず 県議事務所
〒289-1115 八街市八街ほ244
TEL.043(440)7070
FAX.043(440)7030

総武本線沿線地域活性化議連が発足

自民党県議 22人が参集

千葉県の大動脈である総武本線の複線化、快速の増発などへ思いを同じくする自民党の県議会議員が集まって、このほど、自由民主党千葉県議会議員会総武本線沿線地域活性化推進議員連盟(総武本線沿線地域活性化議連)が発足しました。同議連に参加したのは、県議会6期目の浜田穂積議

幹事に山本県議

員を筆頭に平成23年4月の選挙で初当選した1期目議員まで計22人。会長には山武市選出の松下浩明県議が就き、山本義一県議は幹事に就任しました。

佐倉駅以東の複線化、通勤快速の増発、沿線地域経済活性化の推進に寄与しようというのが会の趣旨です。これらの目標実現のため、調査・研究を行うとともに、関係機関へ要望活動を行います。

八街駅を例にとると、総武本線の佐倉駅から東側が単線であるために、運転本数がぐっと少なくなっています。成東発上り快速成東発上り快速電車の増発も八街市民の願いです。県は沿線市町村などとともに組織する「千葉県JR線複線化等促進期成同盟」を通じてJR東日本に要望しています。複線化には多額の設備投資が必要のため、今のところ良い感触はつかめていません。

なかなかに進まない現状を打破し、沿線住民の願いを実現する一助になろうと、総武本線沿線地域活性化議連が結成されました。東海道本線など主要幹線と同じように「本線」の名前が付く総武本線でありながら、単線区間が依然として残っている実態に首をかしげる人も多く、総武本線沿線地域活性化議連は今後、調査・研究を積み重ね、複線化、快速増発実現への動きを後押ししていくことにしています。

東日本大震災 自民県議ら被災地視察



防災の大切さを再認識

自民党千葉県連青年局青年部、女性局と千歳連女性局のメンバーが昨年11月、東日本大震災で大きな被害を受けた県内の被災地を視察しました。これらの被災地では大地震による被害が生々しく残り、視察団の参加者は改めて防災の重要性を認識しました。

自民党千葉県連青年局青年部の常任幹事で、研修委員長を務める山本義一が企画立案した県内被災地視察には、千葉県議会議員16人、女性市議ら9人の計25人が参加しました。バスで県内の被災地をめぐる視察は、最初に訪れた旭市は津波も押し寄せて被害が大きく、多くの死傷者を出し、建物が損壊しました。視察団は、震災で住宅を失った人々が入居する仮設住宅を訪れ、さらに津波が押し寄せた飯岡漁港を視察しました。旭市では震災で9万トンの災害廃棄物が発生し、その処理に忙殺されています。

次に向かった香取市では、地盤液状化の被害が深刻で、震災直後には市の真ん中を流れる小野川の川底が隆起し、多くの建物が地盤の液状化で傾きました。自宅の床の傾きだけを直し、家の傾きはそのままにして住み続ける住民もおり、

さらに、損壊した住家を放置して出て行く人も相次いでいるということです。街のゴーストタウン化も心配されています。最後に訪れた浦安市は、市面積の4分の3が東京湾埋め立てでできた街です。それだけに液状化による被害は甚大でした。視察団は東京湾護岸の視察も行いました。

有害サイトから青少年保護

健全育成条例の一部改正案

環境生活警察常任委で審議

山本県議が委員長を務める環境生活警察常任委員会12月県議会で、県から提案があった千葉県青少年健全育成条例の一部を改正する案が可決すべきものと決しました。山本県議が本会議

で委員長報告を行い、その後、正式に可決された改正条例は、携帯電話などを通じたインターネットの有害サイトから青少年を守るためのもので、これら有害サイトを閲覧できなくするフィルタリングを除外するために保護者の書面による申し出が必要としました。

最近では手軽にインターネットに接続できるスマートフォンが普及していることから、これも改正条例の対象としました。スマートフォンにまで網をかけるのは全国で初めてです。

ただ、インターネットは有用な情報収集手段であり、これをむやみに制限することは知る権利の侵害にもつながりかねないことから、改正案作成に当たって県は広く県民の意見を募りそれを参考に改正案が作成されました。



総武本線沿線地域活性化議連の設立総会。右は会長の松下浩明県議

八街市 地域連携で 創造的発展を

山本よしかず 県議

浦安市の護岸に残る大地震の爪痕を視察する山本義一県議